

Japan Heritage

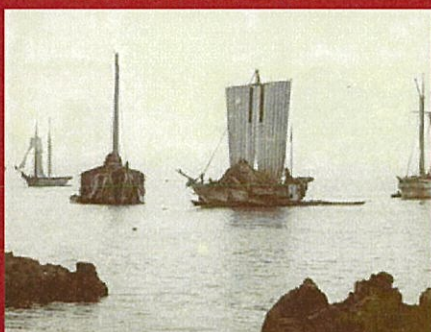
北海道
の



- ① 江差の五月は江戸にもない
～ニシンの繁栄が息づく町～



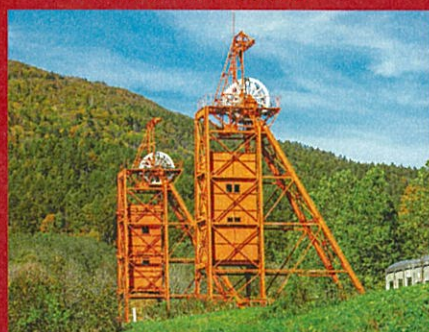
- ② 荒波を越えた
男達の夢が紡いだ異空間
～北前船寄港地・船主集落～



- ③ カムイとともに生きる上川アイヌ
～大雪山のふところに伝承される
神々の世界～



- ④ 本邦国策を北海道に観よ！
～北の産業革命「炭鉄港」～



- ⑤ 「鮭の聖地」の物語
～根室海峡一万年の道程～

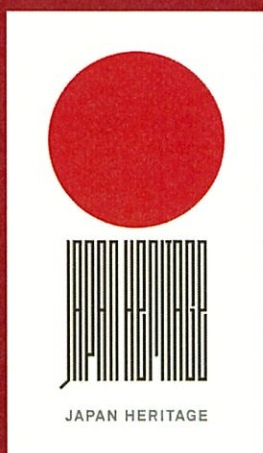


【認定候補地域】

- ⑥ 北海道の「心臓」と呼ばれたまち・小樽
～「民の力」で創られ蘇った北の商都～



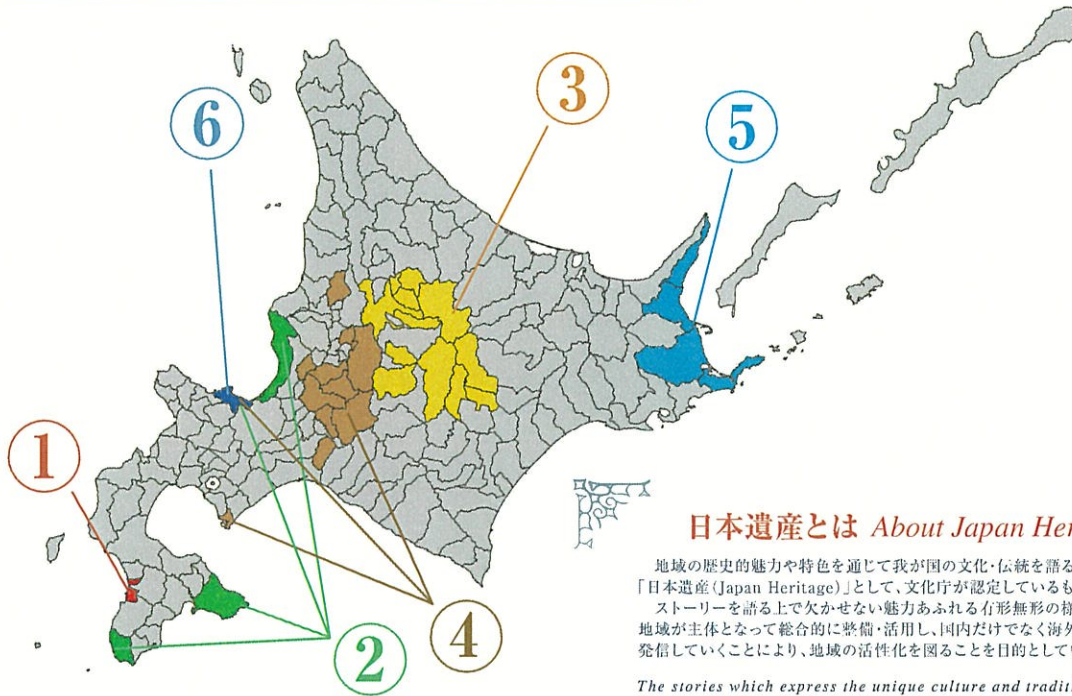
日本遺産



魅力ある日本遺産の活動への応援をお願いします。

北海道総合政策部地域創生局地域政策課

北海道内にある日本遺産



日本遺産とは About Japan Heritage

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として、文化庁が認定しているものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

The stories which express the unique culture and tradition of Japan through the historical attractions and characteristics in each region are recognized as Japan Heritage by the Agency for Cultural Affairs. The aim of the Japan Heritage program is to revitalize local communities through comprehensive and community-led maintenance and utilization of their tangible and intangible cultural assets which are indispensable to telling the stories, and through strategically promoting the cultural assets in Japan and overseas.

認定地域



日本語



English



「北海道の日本遺産」ポータルサイト (北海道ホームページ)



① 江差の五月は江戸にもない ～ニシンの繁栄が息づく町～ (江差町)

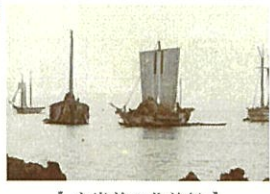
江差はニシン漁とその交易によって繁栄しました。ニシン漁とニシン加工品を求めて各地から交易船や人々が江差港にやってくる旧暦5月ごろの賑わいは、後に「江差の五月は江戸にもない」と謳われました。町並みを歩き、文化に触れ、交易船の停泊港でもあったかもめ島を散策して対岸に広がる江差の町を眺めば、今でも色濃く残るニシンによる繁栄を体感することができます。



【かもめ島 ニシン群来】

② 荒波を越えた男達の夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～ (函館市・松前町・小樽市・石狩市はか遺外市町村)

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。これらの港町は、荒波を越え、船主総合商社として巨力の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間となっています。



【立岩前の北前船】
(小樽市総合博物館 蔵)

③ カムイとともに生きる上川アイヌ ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～ (上川町・旭川市・富良野市・上富良野町・愛別町・北布町・当麻町・東川町・土幌町・滝辺町・土幌町・新得町)

美しく厳しい大雪山のふところに、カムイ・神々を見出し共に生きた「上川アイヌ」。上川アイヌは「川は山へ潮(さかのぼ)る生き物」と考え、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミナラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきました。神々と共に生き、伝承してきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいています。



【大雪山の雄大な自然】

④ 本邦国策を北海道に視よ！ ～北の産業革命「炭鉄港」～ (夕張市・岩見沢市・美瑛市・赤平市・芦野町・三笠市・夕張町・月形町・沼田町・安平町・釧路市・小樽市)

北海道の「石炭」「鉄鋼」「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港(たんでつこう)」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。100km圏内に位置する3地域を原動力に、北海道の人口は約100年で100倍になり、その急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力となっています。



【三菱美唄炭鉄燬坑槽】

⑤ 「鮭の聖地」の物語 ～根室海峡一万年の道程～ (標津町・根室市・別海町・羅臼町)

北海道最東の海、根室海峡。この地では遙か一万年の昔から絶えず人々の暮らしが続いてきました。その支えとなったのは、大地と海を往来し、あらゆる生命の糧となった鮭です。幕末に、人の会津藩士がこの資源に注目し、水産業の芽を育てます。そして現在、その芽は全国の食卓と繁る基幹産業へと成長しました。鮭に笑い、鮭に泣いた人々の歴史と文化、そして誇りがあふれた「鮭の聖地」です。

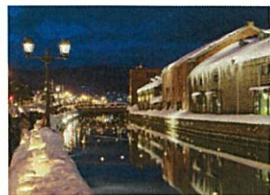


(提供 別海町観光協会)

認定候補地域

⑥ 北海道の「心臓」と呼ばれたまち・小樽 ～「民の力」で創られ蘇った北の商都～ (小樽市)

かつて小林多喜二は、明治以降に、港と鉄道の大大動脈により発展していく小樽を北海道の「心臓」と表しました。北日本唯一の商都小樽は、財を成した資本家など「民の力」でまちをつくりあげましたが、高度経済成長期に衰退。荒廃した運河の保存運動を契機に、新たな「民の力」が動き出し、観光への活用・再生に繋がっています。日本のまちづくり運動の先駆けとなった小樽市民の物語です。



【小樽運河(雪あかりの路)】



魅力ある日本遺産の活動への応援をお願いします。